

## 観光社会資本の事例

テーマ	砂河川・木津川を体感する
【施設の状況写真】	
	
<p>砂河原の再生を図るため、樹林化により砂州域の減少した河川敷を切り下げる等の整備を実施した。</p>	<p>流れ橋と調和した砂河原の景観</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>昔ながらの復活した、水辺に近づきやすい砂河原で、川遊びをすることもたち</p>	<p>「やわた流れ橋時代劇祭」が開催され、全国より約 6,000 人来訪した。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>日本最長級の木橋「流れ橋」(木津川に架かる八幡市と久御山町を結ぶ上津屋橋の通称で全長約 356m)があるこの地に、木津川の特徴である砂河原を復元したことで、賑わいのある水辺空間が創出でき、八幡市が整備した隣接する「やわた流れ橋交流プラザ・四季彩館」とあわせて、あらたな魅力をもつ観光地となっています。また流れ橋をバックに時代劇のロケーションにも利用されており、休日には家族連れがバーベキューを楽しむなど、四季を問わず憩いの場にもなっています。</p> <p>「やわた流れ橋交流プラザ・四季彩館」には年間約10万人の方が訪れています。</p>	

テーマ	砂河川・木津川を体感する
【社会資本の基礎データ】	
<p>名称 木津川水辺プラザ</p> <p>所在地 京都府八幡市上津屋</p> <p>事業名 木津川水辺プラザ</p> <p>事業主体 八幡市、国土交通省淀川河川事務所</p> <p>事業期間 平成12年度～</p>	
【社会資本の役割・効果】	
<p>八幡市が実施する「流れ橋周辺の交流拠点整備」と一体・連携して、木津川の水辺の魅力を最大限に引き出すと同時に河川環境に配慮した整備により、そこを訪れたくなるような「にぎわいのある水辺、昔子供たちの遊び場であった砂河原」を創出し、地域活性化へも貢献しています。</p>	
【位置図】	
【関連ホームページ】	
<p>やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」 <a href="http://www.shikisaikan.co.jp">http://www.shikisaikan.co.jp</a></p>	